

(別添資料1)

私のアクション！未来のNAGANO 創造県民会議 コンセプト資料

2026/03 運営委員会

長野県の人口は、2001年の約222万人をピークに減少を続け、2050年には160万人以下まで減少する見通しです。急激に少子高齢化していく社会の課題に向き合い、人口が減少していく中でも、社会として活力を維持・向上させるためには、行政、産業界、地域、県民一人ひとりがこれまでの常識にとらわれることなく、それぞれの意識と行動を変容していく必要があります。

人口減少を始め、長野県内で存在している課題に向き合い、より良い未来を創造するエンジンとなりうるプラットフォームとして、広く各界各層、様々な方々の参加を得て、オール信州で人口減少対策を進めるため「私のアクション！未来のNAGANO 創造県民会議（県民会議）」を令和6年12月に設立しました。

設立以降、県民会議の存在を知ってもらう広報活動を中心として、長野県民や長野県に関わる人たち（関係人口）に対して、認知を広げ意識変容を促すような取り組みを行ってきました。こうした設立の背景等は理解できるものの、「県民会議」がどのような役割を果たすのかは、現状、理解しづらいかもかもしれません。

“より良い未来を創造するエンジンとなりうるプラットフォーム”としての県民会議は、何を指し、どのような役割を機能させていくべきなのかについては、運営委員会内でも議論・整理を進めてきました。

こうした状況において、今回のプロポーザルにあたっては、単なる仕様書上の業務と捉えるのではなく、県民会議のこれまでの設立背景や活動経緯に加えて、運営委員会が、県民会議についてどのように考えているのかを共有することが、これから業務を受託していただく方にとって重要であると考えています。

本資料は、全体像の把握のために作成しており、主に「県民会議とは？」と「目指すべき役割とは？」の2点に絞って、現段階でまとめたものを共有いたします。応募していただく事業者の方とは、この概念も一緒に磨き上げていけることを期待しています。

他の資料と合わせてご確認ください。

1 県民会議とは何か

県民会議は、
"長野県に生きる意味"を、
ともに育むための活動です

「この場所でずっと暮らしていきたい！」

そんなふうに思えるのは、自分自身が「今、その場所で生きる意味」を感じられた瞬間ではないでしょうか。その「生きる意味」とは、地域や社会と関係性を育む中ではじめて感じられるものだからです。

オール信州で人口減少に伴う様々な課題を乗り越え、よりよい未来を創造していくためにつくられた県民会議。県民会議は「信州・長野県」に関わりをもった一人ひとりが、「長野県で生きる意味」と出会い、ともに育むための活動とも言えます。それを、これまで社会を牽引してきた人たちに加え、これまで声をあげることがしにくかったり、あまり声を聞いてもらえてこなかったりする人たちも含めて、すべての人たちと行うことを目指します（特に、女性や若者はこれまであまり声を上げにくかったかもしれないという認識を持っています）。今よりもっと多様な多くの人と「長野県で生きる意味」を育めたとき、はじめて「未来共創戦略」で掲げた寛容な社会が実現するのではないかと思うからです。

「便利さを考えれば他の場所でもよかったけど、長野県で生きる意味を見つけられた」、そんなときに自然と口に出る「こんな地域に暮らしたい」という想い。それが結果として地域を前に進めていく力になるはずです。

そのために県民会議は4つの役割で「人與人」「人と地域」が関わりを深めるための活動を支援することを目指します。

2 県民会議の目指すべき役割とは？

①日常の小さな不安や、何かしたいという想いを「最初の一步へ」変えること

県民一人ひとりが熱意を持って取り組めるテーマや課題を可視化し、発見する機会づくり

「なんだかずっと、少しだけ将来が不安」「何かはしたいんだけど……」

そんな状態でも参加できるのが県民会議です。いま気になっていること、身の回りの違和感、好きなことや得意なこと、そうしたことを言葉にして「何にチャレンジしてみたいのか」に気づくための時間がここにあります。

言葉にするのが苦手でも大丈夫です。新しい気づきを得るためのいろいろな人との出会いや対話、そして地域や社会に関するさまざまなデータがヒントをくれるはずです。

なんとなくの方向性が見えてきたら、まずは一度試すことができそうな小さなアクションと一緒に計画してみましょう。そのために必要な協力者、場所、期間を整理して今日から動ける形にしていきます。県民会議は一人ひとりの想いを、具体的なアクションに変換するための場所です。

②一人がはじめた挑戦を、「チームでの目標」へ成長させること

志やテーマを共有できる仲間や、必要なスキルを持った人材との出会いをつくる

「やりたいことはあるのに、苦手なことがあってそれ以上前に進めない」

そんな人同士が会うための場所が県民会議です。「あなたの考えていること、やっていることはおもしろいね！」と、地域や年齢を超えて、関心や熱量の近い仲間とつながる機会がここにあります。異なる立場や違った経験を持つ人と話すだけで、自分一人では思いつかなかったことが見えてきます。

仲間が見つかったら、次は「誰が・何を・いつやるか」を考えるステップです。旗振り役だけが頑張るのではなく、関わる一人ひとりが主体的になれる方法を模索します。県民会議は一人の想いをチームの目標に変えていくための場所です。

③動き出した人やチームがぶつかる「壁を乗り越えるツール」をつくること

「やりたい」を応援し、情熱のある人が活動を継続できる環境を整える

「活動をもっと発信したい」「持続的に活動できるような仕組みを考えたい」

そんな壁にぶつかったときに、伴走するのが県民会議です。動き出した人やチームはいつだって「人や情報」のリソースが足りず、壁にぶつかるもの。県や地域の制度、相談先、協力の得方など、使える支援の情報をアドバイスし、必要に応じて適切な専門家や窓口にもつなげます。

また「何を、誰に、どう伝えると進みやすいか」を一緒に考えれば、回り道も減らせます。小さな取り組みが止まらずに育っていくように、現場の摩擦を減らしていく。県民会議は挑戦を実装へ近づけるためのツールを用意する場所です。

④県内外の枠を超えて「知恵や技術、アイデアを持った人」同士をつなげること

活動の価値をより高めるためのチャンネルづくり

活動をしていると、時には、県内だけの取組に留まらないことがあるかもしれません。その時に、県内の活動者がつながるチャンネルのひとつに県民会議がなることができれば、活動の価値をより高めることができるかもしれません。

また、将来的には「アイデアや技術はあるのに試せる場所や機会がない」

そんな想いを抱えている県外の挑戦者や企画のアイデアを、県内の実践者や地域につなげていくことも重要です。ここで目指すのは、県外の人をただ長野県に呼び込むことではありません。信州未来共創戦略で描いた未来に近づくために「今長野県にない」知恵や技術、そして情熱を持った県外の挑戦者が県民会議とかかわり刺激を生み出すことを大切にしたいのです。

地域や組織が外部の実践者と出会う機会を提供するだけでなく、短期間でも実践を行っていくことまでを支えることで、地域にとって貴重な成功も失敗も含めた経験という財産をつくります。県民会議は長野県と外の地域をつなぐチャンネルです。